

## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 アイフリーク

 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊藤 幸司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理グループ長

(氏名) 猪俣 英夫

TEL 092-738-3800

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	1,596	—	△266	—	△257	—	△267	—
23年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △295百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△3,058.97	—
23年3月期第3四半期	—	—

(注) 平成23年3月期第3四半期につきましては、連結財務諸表を作成していないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	1,597	1,058	65.4	11,953.33
23年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 1,044百万円 23年3月期 一百万円

(注) 平成23年3月期につきましては、連結財務諸表を作成していないため記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	1,000.00	—	300.00	1,300.00
24年3月期	—	250.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 現時点では、平成24年3月期末の配当予想額は未定であります。

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,035	—	△385	—	△378	—	△387	—	△4,427.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 通期の連結業績予想に関する事項については、本日(平成24年2月10日)公表の「商品評価損の計上、通期連結業績予想及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

#### 4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 1社 (社名) I-FREEK ASIA PACIFIC PTE. LTD. 、除外 1社 (社名)  
(注)詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(その他)に関する事項」をご参照ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注)詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(その他)に関する事項」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(その他)に関する事項」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	91,388 株	23年3月期	91,348 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	3,968 株	23年3月期	3,968 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	87,400 株	23年3月期3Q	21,787 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、P.2「1.当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
( 1 ) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
( 2 ) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
( 3 ) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2 . サマリー情報(その他)に関する事項 .....	3
( 1 ) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
( 2 ) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
( 3 ) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3 . 四半期連結財務諸表 .....	4
( 1 ) 四半期連結貸借対照表 .....	4
( 2 ) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
( 3 ) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
( 4 ) セグメント情報等 .....	8
( 5 ) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
( 6 ) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、第1四半期連結累計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は、前第3四半期累計期間の財務諸表について記載しております。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災の影響による生産活動の低下から徐々に持ち直しているものの、欧州の金融危機、原発災害、歴史的な円高・株安等、国内外関わらず多くの問題が山積しており、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの関連するモバイル業界におきましては、フィーチャーフォンからスマートフォンへのシフトが続き、2011年の世界市場におけるスマートフォンの出荷台数は前年比71.2%増となり、国内だけでなく世界規模で需要が急伸しております。(2011矢野経済研究所調べ)

一方、当社Eコマースセグメントが主要な商品群として扱ってきた美容・健康系商品カテゴリで、薬事法及び景品表示法等の観点から、違法行為を行っている事業者の摘発が行われるなど、法令順守への要請が強まっている状況にあります。

当社モバイルコンテンツ事業では、海外においてこのような状況にいち早く対応すべく、子会社のI-FREEK ASIA PACIFIC PTE.LTD.は拡大するアジア市場を見据え、クリエイターネットワークサービス「CREPOS」が生み出すオリジナルのキャラクター・イラストを利用したライセンス事業を、アジアをはじめとするグローバルエリアで展開することを決定し、パートナー企業の増強を進めております。

モバイルコンテンツ市場は、特にモバイルSNS市場が拡大し、2012年には2,600億円規模に成長するという予測(情報流通ビジネス研究所調べ)も出ており、このような環境下において、予測が難しく変化の触れ幅が大きいカテゴリこそ将来的にビジネス拡大できるチャンスと捉え、当期の重点課題として、将来に向けた積極的な投資を展開しております。このようにコンテンツセグメントでは新分野へ積極投資を行い、当第3四半期から成果を結びつつありますが、個別サービスでは収益化達成がずれ込むものもあり、来期からの収益貢献となるサービス群が多い状況となっています。

また、ユーザー動向や法規制等の変化に対応する上でビジネスモデルの転換を行うべき領域については構造改革を進め、利益創出体質の強化に取り組んでまいりました。

一方、Eコマースセグメントにおいては、当社は、従前より第三者による表記や販促方法の確認の方法を取り入れて法令を順守して運営しておりましたが、上述の様に散見された不法業者への取締り等が強まるなか、業界が長年続けてきた商慣習から脱却する事が必要であると判断いたしました。

このため、来期以降の堅実な利益創出体質を確立するため、Eコマースセグメントでは大幅な構造変革を行い、既往の取り扱い商材について全面的に見直し、商品在庫について処分を進めるとともに、当期に入って推進してきた新たな商品群と販路の充実に注力してまいりました。

このように当第3四半期におきましても将来に向けた投資等が先行いたしました結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,596,426千円(前年同期比23.3%減)、営業損失は266,344千円(前年同期は227,430千円の利益)、経常損失は257,828千円(前年同期は236,266千円の利益)、四半期純損失は267,353千円(前年同期は149,078千円の利益)となりました。

なお、セグメントの業績は次のとおりであります。

#### モバイルコンテンツ事業

モバイルコンテンツ事業では、個人でゲームを楽しむだけでなく、地域性を絡めたエンタテインメントとして、ゲームフィクションに基づき企画開発を行った位置情報サービス「cocoGe(ココゲー)」を開発いたしました。

新しくリリースしたスマートフォン・スマートデバイス対応ゲーム「ティッシュ」アプリでは、リリースからわずか1ヶ月で30万ダウンロードを達成し、多くのお客様にお使いいただいております。

スマートフォン向けのコンテンツ展開では「スグデコ！」が、ついに利用者50万人を突破し、端末の待受画面に最新のtweetを表示できる、Twitterと連動した「桑田圭祐」「斉藤和義」などビッグアーティストとコラボレーションしたLIVE壁紙のリリースも行いました。また、デジタル絵本アプリ「こえほん」でも「PUFFY」などの有名芸能人や、「およげ!たいやきくん」などの大人気キャラクターと連携した絵本の配信を重ね、着実にダウンロード数を伸ばしております。

以上の結果、スマートフォン向け事業を中心とした新しい事業分野においては、将来の収益基盤としての新たな事業の芽が出てきておりますが、先行投資額を完全吸収するまで成長するには今暫く時間を要することやスマートフォンへの移行に伴うフィーチャーフォン向け公式課金コンテンツでの伸び悩み等もあり、当第3四半期連結累計期間におけるモバイルコンテンツ事業の売上高は954,100千円(前年同期比28.1%減)、営業利益は180,095千円(前年同期比69.8%減)となりました。

### Eコマース事業

Eコマース事業では、薬事法の改正と運用強化により旧来のビジネスモデルでは対応が難しい環境になりつつあります。そのため、物販事業とプラットフォームモデルを融合した新しいモデルへの転換を進めるべく、各サービスの整理と再構築を行っております。

また、強みとしてきた美容・健康系商品カテゴリでは関係法規に照らして懸念のない商品を扱い利益重視を継続しつつ、ギフト事業で培ったノウハウを活かし、クーポンサイトを活用した限定アクセサリ販売や、冷凍スイーツ販売など、より安定したユーザーニーズを見込めるカテゴリでの集客フレームの構築に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるEコマース事業の売上高は642,326千円（前年同期比14.8%減）、営業損失は210,306千円（前年同期は137,825千円の損失）となりました。

#### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

流動資産は、前事業年度末に比べて508,669千円（33.5%）減少し、1,009,613千円となりました。これは主として、現金及び預金の減少303,040千円、売掛金の減少167,795千円によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べて133,803千円（29.4%）増加し、588,324千円となりました。これは主として、事業譲受によるのれんの増加50,256千円、子会社事務所及び東京支店移転等に伴う敷金及び保証金の増加46,098千円によるものであります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて374,866千円（19.0%）減少し、1,597,937千円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて95,751千円（22.2%）減少し、335,237千円となりました。これは主として、未払法人税等の減少81,742千円によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べて62,888千円（44.5%）増加し、204,206千円となりました。これは主として、長期借入金の増加66,870千円によるものであります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて32,863千円（5.7%）減少し、539,444千円となりました。

純資産は、前事業年度末に比べて342,003千円（24.4%）減少し、1,058,493千円となりました。これは主として、配当及び四半期純損失の計上により利益剰余金が315,422千円減少したことによるものであります。

#### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、最近の業績動向を鑑み、予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日（平成24年2月10日）公表いたしました「商品評価損の計上、通期連結業績予想及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

#### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、I-FREEK ASIA PACIFIC PTE. LTD. を設立したため、新たに連結の範囲に含めております。

#### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用して計算しております。

#### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更

（耐用年数の変更）

当社が保有する東京支店の建物附属設備及び備品は、従来、耐用年数を5～15年として減価償却を行ってまいりましたが、第1四半期連結会計期間において、東京支店の移転計画を決定したため、耐用年数を移転予定月までに見直し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益は12,400千円減少し、営業損失及び経常損失はそれぞれ23,525千円増加しておりますが、税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
 (平成23年12月31日)

<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	400,184
売掛金	397,438
有価証券	20,035
商品	70,180
仕掛品	929
原材料	3,571
その他	134,365
貸倒引当金	17,092
流動資産合計	1,009,613
固定資産	
有形固定資産	35,374
無形固定資産	
のれん	50,256
その他	167,346
無形固定資産合計	217,603
投資その他の資産	
投資有価証券	176,276
その他	159,069
投資その他の資産合計	335,345
固定資産合計	588,324
資産合計	1,597,937
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	86,853
1年内返済予定の長期借入金	143,540
ポイント引当金	5,780
その他	99,063
流動負債合計	335,237
固定負債	
長期借入金	197,683
資産除去債務	6,523
固定負債合計	204,206
負債合計	539,444

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成23年12月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	459,248
資本剰余金	449,248
利益剰余金	211,670
自己株式	46,012
株主資本合計	1,074,155
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	21,417
為替換算調整勘定	7,777
その他の包括利益累計額合計	29,194
新株予約権	13,533
純資産合計	1,058,493
負債純資産合計	1,597,937

( 2 ) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 ( 四半期連結損益計算書 )  
 ( 第 3 四半期連結累計期間 )

( 単位 : 千円 )

	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
売上高	1,596,426
売上原価	1,012,523
売上総利益	583,902
販売費及び一般管理費	850,247
営業損失 ( )	266,344
営業外収益	
受取利息	6,636
受取配当金	4,885
その他	725
営業外収益合計	12,246
営業外費用	
支払利息	2,773
その他	956
営業外費用合計	3,730
経常損失 ( )	257,828
特別損失	
特別退職金	1,905
事務所移転費用	5,349
その他	734
特別損失合計	7,989
税金等調整前四半期純損失 ( )	265,817
法人税等	1,536
少数株主損益調整前四半期純損失 ( )	267,353
四半期純損失 ( )	267,353

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	267,353
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	20,022
為替換算調整勘定	7,777
その他の包括利益合計	27,799
四半期包括利益	295,153
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	295,153

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	954,100	642,326	1,596,426	-	1,596,426
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	954,100	642,326	1,596,426	-	1,596,426
セグメント利益又は損失 ( )	180,095	210,306	30,211	236,132	266,344

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとののれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

( 6 ) 重要な後発事象

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	
( 第三者割当による新株予約権の発行 )	
平成24年2月3日開催の当社取締役会において、以下のとおり第三者割当により発行される第10回新株予約権の募集を行うことを決議いたしました。	
・ 名称	株式会社アイフリーク第10回新株予約権
・ 募集または割当方法	第三者割当の方法による
・ 新株予約権の総数	220個 ( 新株予約権 1 個当たり65株 )
・ 新株予約権の目的となる株式の種類及び数	普通株式 14,300株
・ 新株予約権の発行価額の総額	1,706,540円 ( 新株予約権 1 個当たり7,757円 )
・ 行使価額	1 株当たり14,000円
・ 資金調達額	201,906,540円 ( 差引手取概算額199,705,343円 ) ( 内訳 ) 新株予約権発行分 1,706,540円 新株予約権行使分 200,200,000円
・ 資本組入額	会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする ( 計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。 ) 。
・ 申込期間	平成24年2月20日
・ 払込期日	平成24年2月20日
・ 割当日	平成24年2月20日
・ 行使期間	平成24年2月21日から平成26年2月20日まで
・ 割当先及び割当新株予約権総数	O a k キャピタル株式会社 220個
・ 資金使途	デバイス並びにOSの多様化及びアプリ開発に対する研究開発資金 次世代型デジタル郵便事業参画に伴う研究開発資金
( 注 ) 金融商品取引法に基づく新株予約権発行に係る有価証券届出書の効力発生を条件とする。	